

研究課題名	<p>プロテオミクス解析を用いた心房細動アブレーション前後の分子応答の検討</p> <p>—高周波アブレーションとパルスフィールドアブレーションの比較—</p>
研究期間	2026 年 10 月 16 日 ～ 2031 年 12 月 31 日
研究の対象	広島大学において、2024 年 4 月以降に心房細動に対してアブレーションを受けられた方。
研究の目的・方法	<p>心房細動に対するカテーテルアブレーションでは、これまで主に、カテーテルの先端から熱を発生させて心筋を治療する方法 (RFA) が行われてきましたが、近年では、「パルスフィールドアブレーション (PFA)」という新しい治療法が広く使われるようになっていきます。簡便で安全な治療として認知されておりますが、分子レベルでの反応については不明な点も多く、予期せぬ合併症の報告も散見されます。そこで今回、心房細動アブレーション前後に冠静脈洞から採取した血漿を用いてプロテオーム解析を行い、RFA と PFA によって誘導される心臓局所の分子応答の相違を明らかにすることを目的に研究を行います。具体的には、アブレーション開始前および治療終了後に冠静脈洞から EDTA 採血を行い、血漿を分離・保存します。その後、得られた血漿を用いて Olink™ Cardiovascular III による網羅的プロテオーム解析を行います。本研究は、先行研究である E2024-O140「冠静脈洞血液サンプリングならびに動脈血ガス分析による心筋酸素消費量の検討」で採取した検体の残余分および診療情報を用いますので、本研究のために、新たに追加の情報や検体の採取は行いません。</p> <p>特に、心筋障害、炎症、免疫応答、血管内皮障害、凝固・血小板活性化などに関連する蛋白および分子経路の変化を比較し、PFA に特徴的な生物学的反応を探索します。PFA に特徴的な候補蛋白や分子経路を同定できれば、PFA に伴う予期しない有害事象の病態解明や、新たなバイオマーカーの探索につながる可能性があります。</p>
研究に用いる試料・情報の種類	<p>情報：年齢・性別等の患者背景および検査所見、臨床経過等</p> <p>試料：術前後に患者さんの冠静脈洞から採血した血液検体 (E2024-O140 で採取した検体の二次利用)</p> <p>情報の管理責任者：広島大学大学院医系科学研究科循環器内科学教授 中野 由紀子</p>
利用または提供を開始する予定日	2026 年 10 月 16 日 (実施許可日以降)
個人情報の保護	得られた試料・情報から氏名・生年月日・住所等の特定の個人を識別できる記述を削除し、代わりに新しく研究用の番号を付けて取り

	扱います。
外部への試料・情報の提供	ありません。
研究組織	本学の研究責任者 広島大学大学院医系科学研究科循環器内科学 教授 中野 由紀子
その他	本研究で取得したデータは、将来この研究とは別の研究に利用させていただく可能性があります。その場合は改めて倫理審査委員会で承認後、研究機関の長の許可を得てから使用します。 その際は、本学のホームページ（人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報公開） https://med.ethics-system.hiroshima-u.ac.jp/rinri/publish.aspx へその情報を掲載し、拒否の機会を保障します。
研究への利用を辞退する場合の連絡先・お問合せ先	<p>研究に試料・情報が用いられることについて、研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合は、研究対象としませんので下記の連絡先までお申し出ください。お申し出による不利益が生じることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお、公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。</p> <p>また、本研究に関するご質問等あれば下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲内で、研究計画書および関連書類を閲覧することができますので、お申し出ください。</p> <p>広島大学病院循環器内科 〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 TEL)082-257-5540 担当者：中野 由紀子</p>